

2025年12月号

カトリック二俣川教会
教会だより

No.388

(2025年11月30日発行)



二十六聖人

Merry Christmas



巻頭言：クリスマスを迎えるにあたって

主の降誕を迎えるにあたって改めてその意味を考えて、私たちの心を綺麗にしながら準備していければと思います。教会の典礼歴も1年を終えて、待降節に入っています。待降節＝アドベントという単語は「到来」を意味するラテン語 *Adventus*(＝アドベントゥス)から來るもので「キリストの到来」のことを意味しています。そして、待降節の期間というのは2つの到来を待ち望む季節でもあります。

まず1つめの到来が終末のときのキリストの再臨です。年間最後の主日が「王であるキリスト」の主日であったように、待降節の直前にあたる「年間」の終わりの期間でキリストの再臨を記念してきました。待降節は、この主の再臨への待望の内容をそのまま受け継いで始まります。そのため、待降節の前半の典礼では、再臨への待望が主題となっています。

もう1つの到来は主の降誕のクリスマスを祝うための準備の期間です。教会では、馬小屋を作ったりアドベントキャンドルを立てたりしています。目に見える形として、私たちはクリスマスを迎える準備もしますが、私たちの心を神様に向け直す時もあります。待降節は、ただクリスマスが来るのをじっと待つ期間ではなく、私たちの方からイエス様の誕生を迎える準備をします。

一般的にクリスマスと言えば、私たちの現代社会ではすっかり定着しています。毎年この時期は「クリスマス・シーズン」と呼ばれるほどであり、クリスマス・ツリーやサンタクロース、美しいイルミネーションなど、喜びと平和のシンボルがあふれ、年の瀬に華や

かさをもたらしています。また、キリスト教圏では、馬小屋や星の光、天使など、聖書の「イエスの誕生物語」に由来するたくさんのシンボルが街や家庭を飾ることもあります。

しかし、多くの人々にとってクリスマスはこのようなイメージが優先されているのでその主の降誕の本来の意味を知らない、分からない人が多いのは悲しいことです。このように日本にすっかり定着している「クリスマス」ですが、その原点はイエス・キリストの誕生を祝う日になります。聖書においてイエスの誕生(幼少時代)が書かれているのは、ルカの福音書とマタイ福音書です。その箇所は皆さんも良くご存知だと思いますが、イエスは当時のイスラエル民族の具体的な歴史の中で誕生します。神の子イエスは王のように地上の権力を握る者としてではなく、「真の救い主」としてすべての貧しく、低くされている人々の中に生まれました。すべての人々の救いを実現するために、神はその「独り子」を無力で小さな幼子として、人の世に入ってこれました。利己主義(エゴイズム)の結果である混乱と悲惨さが渦巻く人間の歴史の中に、このような形をとて「神の想い」があらわれ、イエスによって確かな救いのわざが始まりました。これが「クリスマス」を祝うということの根本的な動機であり重要なことです。

クリスマスが「喜びの祝祭」であるのは、聖書に記された「救い主」がついに到来したという喜びに由来しています。現在も世界で色々な混乱や争いなども起こっていて真の救い、平和が見えない状況にあると思いますが、そのような中でキリストが私たちの闇を

照らし、希望の光で満たしてくださるようにそのことを願いたいと思います。そのような中で、今でもキリストの誕生を知らない、あるいは知っていたとしても興味がない多くの人にクリスマスの本当の意味を伝えていくというのも、キリストを信じている私たち一人一人に任せられている宣教の使命ではないで

しょうか。私たちも何となく毎年過ごし、また色々な行事が重なったりして慌ただしく過ぎていくこの待降節の季節について改めて思い起こしながら、それぞれが主の降誕をふさわしく迎える準備をしていくことが出来るよう心がけていきたいものです。

マキシミリアノ・マリア・コルベ 内藤 聰

二俣川教会 ニュース

- 11月22日(土)に第3地区の信仰を伝える力を育てる部門の主催で「2025年聖年 希望の巡礼者」と題して、戸部教会、末吉町教会から巡礼指定教会である山手教会への徒歩巡礼が行われました。秋晴れの中80名を超える巡礼者が集うことができました。参加者の声を次号でお伝えする予定です。



- 11月23日(日)に予定されていた福祉委員会主催の講演会は、残念ながら登壇者の都合により中止となりました。
- 11月24日(月・祝)、日本カトリック神学院で行われたザビエル祭に、二俣川教会からは20名以上の方々がバスツアーで参加されました。今年のテーマは『希望に満ちあふれて(ロマ15:13)』でした。内容などの詳細は次号でご紹介します。
- 横浜教区の福祉委員会からの依頼で「フィリピン・セブ島地震被災者支援の為の募金」が呼びかけられています。専用の封筒をご利用の上、聖堂の献金箱または事務所窓口右横の郵便受けへお入れください。心を合わせて、祈りと献金に取り組みたいと思います。
- 12月6日(土)13時半から、待降節黙想会とゆるしの秘跡が行われます。今年の指導司祭は、ヨセフ・チャン・ゴー・グエン・バー神父様です。今年6月に叙階されたバー神父様はナン神父様と神学院の同級生です。ベトナム人としてはじめての聖パウロ修道会の神父様です。今年の黙想会のテーマは『捧げよう～あなたのすべてを』です。バー神父様のお話からそのヒントを得て、待降節のよい準備をしましょう。
- 12月7日(日)にクリスマスバザーが行われます。皆様、協力し合って楽しみましょう！当日ボランティアも募集中です。
- 12月21日(日)10時のミサの後、『みんなで歌おうクリスマス』が聖堂でそのまま行われます。ミサに集った皆さんで、クリスマスの喜びを分かち合いましょう♪





2025年11月 (11月2日開催)

【検討事項】

1. 12月7日クリスマスバザー

11月9日にクリスマスバザー実行委員会を立ち上げます。

2. 祭壇上方の照明器具更新工事

祭壇上方の照明器具が劣化してきたので完全に故障する前にLEDへ更新します。工事期間は11月10日から13日の四日間です。

3. 外部団体への集会室の鍵貸出

当教会は外部団体に集会室を貸出していますが、施錠されていたため室を利用できないことが何度かありました。そのため、集会室の鍵を入れたキーボックスを用意して、必要なときは外部団体が鍵を使用できるようにしました。もちろんセキュリティーには十分考慮しています。

4. 2026年年間行事予定

(2025/12~2026/12)

来年の各会年間行事予定を調整しました。11月中に予定表を配布する予定です。

【報告事項】

1. 10月26日バザー報告

- バザーからの献金は、献金箱への直接献金11,492円を含めて総額104,152円でした。この献金はすべて年末福祉献金に充当します。また、日本語学校ひろばのフードドライブにたくさんの食品が集まりました。ご協力いただいた方々に感謝します。
- 外部団体(いのちの電話、力ナの家、まどか工房)の出店売上はすべて各団体に持ち

帰って頂きました。各団体から丁重な感謝の言葉があったとの報告がありました。

2. クリスマス献金

クリスマス献金を待降節第一主日から開始します。この献金はすべて年末福祉献金に充当します。

3. 2026年以降の教会設備工事予定

- 2026年の主な設備工事は、司祭館空調二期工事、電話主装置更新、聖堂排煙窓修理の三つです。
- 2027年から2028年にかけて聖堂および信徒会館1,2階の空調設備更新を予定しています。総額約2千万円を要するため、来春から空調設備更新に向けた献金を始めます。皆さまのご協力をよろしくお願いします。

【フリーディスカッション】

テーマ「次回通常聖年 2050年までに二俣川教会はどうなっているか、それに如何に備えるか」

本年立ち上げた「2050年委員会」の課題である二俣川教会の将来予測とそれに対する対策を話し合いました。今回は、信徒数の漸減が予想されること、そのなかで特に壮年層への新たな働きかけが重要であることなどが話題になりました。

この二俣川教会を健やかな信仰を育む場として子ども達や青年たちに引き渡していくように、これからも教会委員会は検討を進めています。

【各会報告】

1. 典礼委員会(書面報告)

- ・祭壇照明工事期間中(11/10~11/13)は週日ミサをお休みします。
- ・12/4(木) ベネディクション 19 時
- ・12/24(水) 主の降誕(夜半のミサ)19 時
- 12/25(木) 主の降誕(日中のミサ)10 時
- ・12/28(日) 聖家族(祝)7 時, 10 時
- ・12/31(水) 週日のミサ 10 時

※夜半のミサはありません

- ・2026/1/1(木) 神の母聖マリア(祭)10 時

2. 教会学校

- ・教会学校 11/2、11/16(七五三お祝い)、11/30(ゆるしの秘跡)予定
- ・11/9 侍者会、リーダー会
- ・10/26 バザーでミニカップランタンを作りました。クリスマスツリーに飾りますのでご覧ください。

3. キリスト教講座

11/30 10 時ミサにて入門式を行います。

4. 福祉委員会

11/23 ミサ後にカリタス南三陸の活動報告会(報告者 代表理事 C. M. 氏)を行います。

5. 共同墓地委員会

- ・10 月度活動実績 10/16 K 様 3 体納骨、生前予約希望者への説明 2 人、11/3 追悼ミサ、納骨式家族へのフォロー 2 家族
- ・11 月予定 11/30 第三回共同墓地合同委員会(保土ヶ谷教会) 議題: 共同墓地増設

6. ヨゼフ会

11/16 定例会、11/23 コーヒー光を予定しています。

7. マリア会

- ・運営委員会 10/23 実施、11/6 予定
- ・マリア会例会 11/16 予定
- ・マリア会イベント(10/26 バザー) ぶたきのご丼を提供
- ・ステラマリス帽子を編む会 10/17、10/23 活動、11/27 予定、クリスマス

ラッピング 11/21 予定

- ・アンナ会 10/6、10/27 活動、11/10 予定
- ・ボリビア支援グループ のんびり日曜日: 10/5 実施、11/9 予定
- 会議: 10/30 実施、来年 1/16 予定

8. 青年会

- ・10/26 バザーでバザーテーマに合わせて通常聖年に関するパズル探しをおこないました。子供たち、ボランティアの方に参加してもらいパズルを完成させることができました。階段踊り場に展示してあります。教会学校リーダーの皆さんありがとうございました。
- ・来年 1/11 の青年ミサ・二十歳のお祝いを企画しています。

9. インターファミリー

- ・10/26 バザーに出店しました。一番早く完売しました。
- ・12/7 バザーに軽食を出店する予定です。
- ・11 月中にグリーティングカードを作成し、アルペなんみんセンターへ送付する予定です。

10. 一粒会

11/24 ザビエル祭のため 25 人乗り送迎バスを仕立てます。

11. 地区世話人会(地区担当副委員長報告)

11/9 地区世話人連絡員会を行います。

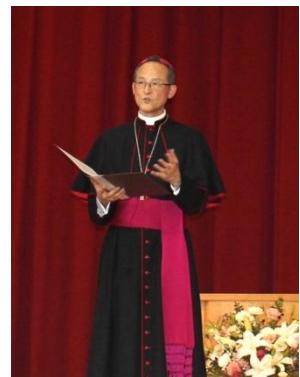
以上

広報委員会から皆様へ

今年は、二俣川教会オリジナルのアドベント&降誕節カレンダーを作成しました。典礼暦はもちろん、様々なイベント予定と毎日の「福音のひとこと」もご一緒に。どうしても忙しいこの季節を、みことばを心において過ごしませんか? ぜひ、見やすい場所に貼って活用してください♪

～第57回一粒会大会参加記～

聖年に3名の司祭叙階というお恵みをいただいた横浜教区の一粒会大会。「私たちは神の民、イエスさまについていこう」のテーマのもとに、函嶺白百合学園に集まった総勢約800名の皆様と共に祈る一日となりました。まずは、酒井司教様のご講話にて「教区、お祈り、ご聖体拝領、ミサ前の聖水、赦し」の意味をユーモアを交えて丁寧に教えていただき、私たちそれぞれにも召命を頂いていることを黙想します。続くミサのお説教では、枇杷神父様から3月の叙階の感謝とお喜びのうちに勤めされているご近況を伺うことができ、また「暗



闇から私たちを導いてくださる光はイエス様から」という力強いお言葉に励ましをいただきました。梅村司教様による司祭団紹介では、枇杷神父様と8月に叙階のナン神父様とグエップ神父様のお姿をご一緒に拝見できて、みんなで拍手・拍手！閉祭の聖歌では神父様方と子供達の手話と共に「アーメン、ハレルヤ」を平和のうちに捧げました。最

後に主催の第六地区の方から、各地区のご紹介も頂いて、同じ横浜教区の連帯を確認できることも良い思い出となりました。

今回の一粒会大会で、希望の道標を頂きました。主が私たち皆に蒔いてくださった種を共に育てることによっても、司祭召命のお祈りを強めていくのですね。

「実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである（マルコ 2:15）」。お取りまとめ下さった一粒会の皆様、ありがとうございました。



マグダラのマリア S. S.



《 今月の意向 》 ■ 12月

教皇の意向： 紛争地域のキリスト者

戦争や紛争が起きている地域、特に中東で暮らすキリスト者が、平和、和解、希望の種となることができますように。

日本の教会の意向： 召命

私たちそれが何に召されているかをよく見極め、喜んで神と人に奉仕する生き方を選ぶことができますように。特に、司祭、修道者が、私たちの中から召し出されますように。

（カトリック中央協議会ウェブサイトより）

聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中で見出す助けとなり
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年
特集
最終回

24 神の母は、希望の
もっとも偉大なあかし
人です。このかたを見
ると、希望は中身のな
い楽観主義ではなく、生
の現実の中の恵みのたまものであることが分
かります。どのお母さんもそうであるよう
に、このかたはご自分の息子を見るたびに、
その将来のことを考えます。神殿でシメオン
からかけられたことばは、確実にこのかたの
心に刻まれました。「ご覧なさい。この子
は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上
がらせたりするためにと定められ、また、反
対を受けるしとして定められています。
一あなた自身も剣で心を刺し貫かれます」
(ルカ 2・34—35)。ですから十字架のも
とで、無実のイエスが苦しみ死ぬのを見てい
る間、すさまじい苦しみにありながらも、主
に対する希望と信頼を失うことなく、「は
い」と言い続けたのです。このようにして聖
母は、「人の子は必ず多くの苦しみを受け、
長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて
殺され、三日の後に復活することになっている」(マルコ 8・31)という告知をもって御
子がいっておられたことが、わたしたちのた
めになし遂げられることに協働されたので
す。そして、愛をもってささげられた激しい
苦悩にさいなまれる中で、わたしたちの母、
希望の母となられたのです。民間の信心の中
で、聖なるおとめマリアが「海の星（ステ

ラ・マリス）」と呼ばれているのは偶然では
ありません。この称号は、人生の荒波の中にある
わたしたちを、神の母は助けに来てくださり、
支えてくださり、信頼をもって希望し続ける
よう招いてくださるという、確かな希望を表しています。

これに関連して、メキシコシティにあるグアダルペの聖母の巡礼所が、おとめマリアの最初の出現五百年の記念を2031年に祝うべく準備していることを思い起こしたいと思います。神の母は、青年ホアン・ディエゴを介して、革命的な希望のメッセージを届けてくださいました。聖母は今も、それをすべての巡礼者と信者たちに繰り返し伝えておられます。「あなたの母であるわたしが、ここにいるではありませんか(20)」。同様のメッセージは、世界各地の多くの聖母巡礼所で人々の心に焼きつけられています。それら巡礼所は、不安、苦しみ、希望を神の母にゆだねる、無数の巡礼者が目指す先です。この聖年の間、巡礼所は、歓待する聖所、希望を呼び起こす特別な場となるはずです。ローマを訪れる巡礼者が、市内の聖母巡礼所に立ち寄つて祈り、おとめマリアを崇敬し、そのご保護を願うよう招きます。わたしは、すべての人が、なかでも苦しむ人、虐げられている人が、わが子を決して見捨てない母の中でもつとも愛情深い母であるかた、聖なる神の民にとって「確かな希望と慰めのしるし(21)」で

あるかた、このかたの寄り添いを味わうはずだと確信しています。

25 聖年に向けて、聖書に立ち戻り、わたしたちに向けられたことばに耳を傾けましょう。「それは、目指す希望を持ち続けようとして世を逃れて来たわたしたちが、……力強く励まされるためです。……わたしたちがもっているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入って行くものなのです。イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです」（ヘブライ6・18—20）。これは、わたしたちに与えられた希望を決して失うことのないよう、神のもとに避難所を見いだすことによってその希望にしがみつくようにとの、力強い招きです。

錨のイメージが雄弁に示唆するのは、人生の荒波にあっても、主イエスに身をゆだねれば手にできる、安定と安全です。嵐に飲まれることはありません。わたしたちは、キリストにおいて生きて、罪と恐れと死に打ち勝つことができるようとする恵みである希望に、しっかりと根を下ろしているからです。この希望は、日常の充足や生活環境の改善よりはるかに重大で、わたしたちに試練を乗り越えさせ、招かれている目的地である天国のすばらしさを見失わずに歩むようにと背中を押してくれるものです。

ですから次の聖年は、ついえることのない

希望、神への希望を際立たせる聖なる年です。この聖年が、教会と社会とに、人間どうしのかかわりに、国際関係に、すべての人の尊厳の促進に、被造界の保護に、なくてはならない信頼を取り戻せるよう、わたしたちを助けてくれますように。信じる者のあかしが、この世におけるまことの希望のパン種となり、新しい天と新しい地（二ペトロ3・13参照）一主の約束の実現へと向かう、諸国民が正義と調和のうちに住まう場所—を告げるものとなりますように。

今より、希望に引き寄せられていきましょう。希望が、わたしたちを通して、それを望む人たちに浸透していきますように。わたしたちの生き方が、彼らに「主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め」（詩編27・14）と語りかけるものとなりますように。主イエス・キリストの再臨を信頼のうちに待ちながら、わたしたちの今が希望の力で満たされますように。わたしたちの主イエス・キリストに賛美と栄光が、今も、世々に至るまで。

教皇在位第12年、2024年5月9日
わたしたちの主イエス・キリストの昇天の祭日
ローマ、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノにて
フランシスコ

(20)「グアダルペの聖母の出現物語」
(Nican Mopohua, n.119 [御聖体の宣教クララ修道会誌、1981年、10頁])。
(21) 第二バチカン公会議『教会憲章』68(Lumen gentium)。

今年、連載で分かち合ってきた通常聖年の大勅書も、聖年の扉がまもなく閉じられる12月号で最終回となります。この1年、聖年に関するメッセージや分かち合い、祈りを通していただいた多くの気づきを、あらためて味わう待降節となりますように。
以下の日程で、聖年の閉幕式ミサが山手教会にて行われます。

日時：2025年12月28日(日) 聖家族(祝) 11:30～
司式：ラファエル 梅村昌弘 司教

きょうかいがっこうだより

カトリック二俣川教会 教会学校

2025年12月

【12月の予定】

・12月 7日	全クラス	(9:00～聖堂で聖劇の練習) ミサ後クリスマスバザー
・12月14日	全クラス	(9:00～聖堂で聖劇の練習)
・12月21日	全クラス	(8:30～聖堂で聖劇の練習) 10時ミサの中で聖劇をします。 衣装をつけるため集合時間が早くなっています。

*11/30 から待降節になりました。待降節は私たちのために人となられたイエス様のご誕生をお祝いするクリスマスのための準備の期間です。私たちもクリスマツリーに飾るランタンを10/26 のバザーの時に作りました。この他にもお手伝いや親切などの良い行いとお祈りのプレゼントをたくさん用意してイエス様をお迎えする準備をしましょう。



《みんなで作ったランタンはクリスマツリーにかざります》

《お祈りも大切に》

*11/16 のミサの中で7人のお友だちが七五三のお祝いをしました。神父様から祝福と守護の天使のおメダイをいただきました。みんな仲良く元気に神様の子どもとして成長していく様子。





聖ニコラウス様って誰？



今年も12月を迎えクリスマスが近づく頃になりました。子どもたちはサンタクロース(Santa Claus)の登場を楽しみにしながら日々を過ごすようになることでしょう。

調べてみると、サンタクロースのモデルになったのはシンタク拉斯であり、そのシンタク拉斯のモデルは「ミラのニコラウス」ではないかとされています。ニコラウスは教会では聖人として列聖されている為、「聖(セント)ニコラウス」という呼称が使われます。これをオランダ語にすると、「シンタク拉斯」になります。オランダでは14世紀頃から聖ニコラウスの命日の12月6日を「シンタク拉斯祭」として祝う慣習があり、その後17世紀にアメリカに植民したオランダ人が「サンタクロース」と伝えたとのことです。

何故、サンタクロースがプレゼントを子どもの家に持ってきてくれ、ベッド脇に下がっている靴下の中にそれを入れてくれるのかというと、こんな話が伝わっています。

『ある時ニコラウスは、貧しさのあまり三人の娘を身売りしなければならなくなる家族の存在を知った。ニコラウスは真夜中にその家を訪れ、窓から金貨を投げ入れた。この時暖炉には靴下が下げられており、金貨はその靴下の中に入ったという。この金貨のおかげで家族は娘の身売りを避けられた。』この逸話が由来となり「夜中に家に入って、靴下の中にプレゼントを入れる」というサンタクロースの話の一つが生まれたとされています。

ドイツの古い伝承では、サンタクロースは双子で、一人は紅白の衣装を着て良い子にプレゼントを配り、もう一人は黒と茶色の衣装を着て悪い子にお仕置きをすると言わされてきました。現在のドイツでは聖ニコラウスは「シャープ」と「クランプス」と呼ばれる二人の怪人を連れて街を練り歩き、良い子にはプレゼントをくれるけれど、悪い子にはクランプスに命じてお仕置きをさせるという話に少し変わっているそうです。

主のご降誕を祝う日であるクリスマス！その日の最大のプレゼントは言うまでもなく、主イエス・キリストが私たちの為に生まれてくださったという事実でしょう。子どもたちと同じようにケーキやおもちゃなどに嬉しさを感じなくはありませんが、自分が幼かった頃のように、良い子にしていれば“プレゼント”がもらえると信じて小さな努力をするような素直な生き方を思い出し、12月の日々を自分の為にだけでなく、周りの人たちの幸せを思って、心広く、心豊かに、心清く生きられないものとの大きな課題を自分に課したくなりました。皆さま、聖ニコラウス様とは、勿論、サンタクロースのことですよ。

マリア会 F. N.

【編集後記】

典礼暦で1年の最後の主日にあたる「王であるキリスト」の祭日「聖書と典礼」のコラムに世界青年の日について書かれた神父様の言葉が心に残っています。希望をテーマにした聖年にあたって、フランシスコ教皇様やレオ14世教皇様から青年たちへ贈られた様々な言葉。それを『若者を励まし、希望を持って彼らに委ねなさい』という自分への言葉として受け止めましたというものでした。小さな子にとっての小中高生、小中高生にとっての青年、青年にとっての壮年、壮年にとっての…。すべての、教会大家族の関係性にとって大切なキーワードだと感じました。励ましあって歩んでいく1年を、この待降節から始めたいと思いました♪(O.Y.記)